

いきいき華麗に 女性トップ

◇◇19

ジーアンドエス社長
萩原 扶未子さん



自分のために生きたい

カウンセセル事業に経験生かす

【プロフィール】
85年管理工学研究所入
はきはら・ふみこ 1981
年(昭56)東京スクール
設立。石川県出身。ジ
オビジネス専門学校経
アンドエス(金沢市、0
富卒、同年NJK入社。 76・2022・7234

というのは、会社や社員
の問題が気になっていた。
「心の問題を抱えた社
員は医者から休養を勧め
られても、会社に余力が
なければ難しい。それに
休養を止めざるを得ない
本人にとって根本的な解
決にならない。また、経
営者も心の問題を抱える
場合があり、悩みを打ち
明ける場所がない。だか
らカウンセリングを自指
すことにした」

来年、大学院に行って
産業心理学修士を目指す。
オンラインでのカウ
ンセリングも始める計画
で、新たな道も徐々に確
立しつつある。

(金沢・市川哲寛)
(木曜日に掲載)

ジーアンドエスの萩原 した
扶未子社長は、専門学校
を卒業後、いったん大手
のコンピューターシステ
ムハウスに入社。しか
し、病氣や結婚が重なっ
て退職を余儀なくされ、
コンピューターのシステ
ム開発などを請け負う同
社を設立した。

「もともとアルバイト
感覚で始めたけれど、調
査業務に都合がいいとい
うことで株式会社化し
た。仕事も増え出して、
人を雇うまでになった。
従業員が毎月の給与で生
計を立てていることを認
識した時、初めて自分が
経営者であることを自覚

仕事量を確保するため、
自ら営業活動に歩いた。
だが、当時は女性の経営
者というだけで信用が薄
く、苦勞が絶えなかつ
た。また、事務が分かる
はずもなく、伝票作業や
原簿管理など経営の基本
を銀行の担当者などから
聞いて、少しずつ知識を
蓄えていった。

「当初はアポイントを
取って訪問しても、名刺
さえも受け取ってもらえ
なかった。精神的に怖く
なって営業活動に行けな
くなる時もあった。それ
でも、異業種交流会など
の勉強会に参加、経営者
という同じ立場の人に話
を聞いてもらい、克服し
ていった。異業種交流会
をきっかけに新たな顧客
を開拓、事業が上昇気流
に乗り始めた」

「自分が必要とするも
のは、相手も必要なも
の」という商売感覚が芽
生え、コンピューターの
導入コンサルトやデ
ータ入力などのトータル
サポート事業を展開し
ていった。

「会社を大きくしよう
と、設立から14年間は、

中堅・中小企業・ベンチャー